

## 第150回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ：<http://darumajin.sakura.ne.jp/> )

平成29年12月

日 時：2017年12月21日(木) 16:00-17:30 場 所：神奈川大学 1号館 804号室  
◆主 催：防災塾・だるま 司会：山田美智子 記 録：中島光明  
◆談義の会参加者：会員 21名、一般 9名(含む講師、大学生6名)、計 30名(敬称略)



話題：『防災・減災の課題を考えよう』  
～基礎自治体が抱える災害対応上の課題と  
皆さんに期待される 自助・共助～  
講師：飯塚 智規 氏  
(一般財団法人 消防防災科学センター研究員  
政治学博士)

講師の飯塚氏

佳本先生の挨拶と  
司会の山田さん



防災行政・復興行政のプロの視点から、地方自治体(行政)が直面している災害対応上の課題について、実例を挙げ鋭い切り口で解説。そして、これらの課題の本質を指摘し「何をなすべきか」と「市民に期待される自助・共助」についての提言。

### ポイント1：「市町村は災害対応に失敗する！」

- ◇2017年7月九州北部豪雨(朝倉市)  
市職員と他機関の効果的な連携体制が構築されず
- ◇2016年熊本地震  
職員が物資取扱に負われ、災害対策本部に不在
- ◇2016年8月台風10号災害(岩泉町)  
職員が電話対応に負われ、避難情報が共有されず
- ◇2015年9月関東・東北豪雨  
住民への避難勧告メールが配信されず

#### ＜失敗が繰り返される理由＞

- ・首長の災害に対する組織対応力の過信
- ・防災担当者は災害対応のスペシャリストではない
- ・防災担当者に求められるのは決断力との過信

#### ＜失敗を防ぐには＞(自治体職員への啓発)

- ・図上訓練やワークショップの研修の実施

### ポイント3：「我々はガバナンスを目指さなければならない」

- ・ガバナンス＝行政と地域住民などによる「協働での社会の統治」

#### ◆ガバナンスの現実(誤った災害対策)

一方的なコミュニケーション(住民と行政のコミュニケーションの欠如)：衝突が起こり信頼関係が生まれない。

#### ◆ガバナンスの理想(適切な災害対応)

「自助・共助のための支援・働きかけ」と「公助への参加」：「できない」「やれない」ではなく、「では、どうすれば良いか」を回答するのが大事で、コミュニケーションの円滑化が信頼関係を生む。

#### ◆コミュニケーションには信頼関係が必要不可欠

- ①自分たちも努力しているという自己PR
- ②お互いが何を目指して自助・共助・公助を行なうべきか？
- ③できないものはできない。お互いができることを検討する。

### ポイント2：「地域防災は自助7割・共助2割・公助1割ではない」

- ・阪神淡路大震災では、倒壊した建物から救出された人の約8割が住民によって救出。
- ・震災発生から約40日後、公的避難所で生活していた人々は1割前後に過ぎない。
- ・被害者を助けるのも被災後の生活も、ほとんど自助・共助によるもの。
- ・だから自助・共助を推進することは、地域防災力を向上させるために重要！
- ・自分も、地域も、自治体も、それぞれが災害時の役割を理解し、その役割を100%果たすよう取組むこと。
- ・住家の被害認定調査が遅れ、罹災証明の発行が進まないと被災者の生活再建や街の復旧・復興が始まらない！



講演会場の模様

### ＜まとめ＞

- ① 行政は万能ではない！過信は禁物！
- ② お互いが自分の役割を理解し100%の取組みを行わないと復興できない！
- ③ 地域住民と地域行政との間でのコミュニケーションが地域防災の向上に寄与する。

### ●次回(第151回)案内

- ・日時：2018年1月25日(木) 18時～19時30分
- ・会場：神奈川大学1号館804号室
- ・テーマ：「災害と公衆衛生」 大久保一郎氏(横浜市健康福祉局衛生研究所所長)